

# サラリーマン人生物語（20代日本編）

2008年9月30日

この日僕は人生で二度目の退職をした。

高校卒業から働き始め一社目で四年半、

二社目で三年半闘った。

日本のサラリーマン人生を通して僕が学んだ事は想いを持つという事。

その想いが強ければ強い程、結果がついてくる。

だがその想いはどっから生まれどう発揮されるのか？

日々変化していくなかで自分自身の想いも変化する。

\*\*\*\*\*

**人としての成長は真剣から始まり  
悩みでつまずき決意から発展し  
目標でぶれず達成で完結する。**

\*\*\*\*\*

この想いが少しでも貴方に伝わればいい。

# 1、 小学生時代

## 何でも屋開業

僕の初めての仕事は小学5年生の時、当時僕に何故かお金をくれる友達が4人いた。ゲームセンターにいったら千円札を何枚もくれ、マックにいったら全員分奢ってくれる。平気であまった物を捨てていく僕達。

1万円でジュースを買いに行ったら普通にお釣をもらって行く。

現金でテレビゲームを買っては友達にあげていく彼らを見てお金とは何なのかと疑問すら思った。

しかもその友達の内3人は特に金持ちではなくある理由で金を得ていた。

僕はそんな感覚に慣れていった。

後から分かった事だが、その友達は親からお金を盗んで僕等に渡していただけだった。

とうとう親にばれて学校中で大問題になり僕等は資金源を失った。

親父が僕に言った言葉。

「お金の重要さを分からないなら自分で働いて大学に行きなさい。」

その言葉は当時小学生だった僕には理解ができなかった。

もらったお金の重要さが分からず、お金をただ浪費していた小学生だった。

お金と何だろう。そんな環境で僕の人生は始まった。

僕の初めての仕事は小学六年生の時だ。

自分の力でお金を稼いでみたい。他人からもらうのではなく自分の力でどれくらい稼げるのだろう。1年前は気付いたら千円札で財布がいっぱいになっていた。

でも気付いたら空っぽになっていた。それと同じで心は空っぽのままだった。

自分で稼いだお金と他人からもらったお金の価値は違うのか。

そんな子供心が僕を動かした。

地元の小学生を対象に何でも屋商売を始めた。今でいう中古ショップだ。

安く買って、高く売る。僕の家が物置が自然とお店になっていた。

ファミコンのカセット、靴、服、電池、時計、本当に何でも屋だった。

のちに古漫画屋専門になって、漫画をソリいっぱいに乗っけて町中に営業しに行った。ただ無我夢中に走っていた。

一緒にやっていた友達がライバル店を出店し経営は困難な状況になってきた。

1ヶ月程続いただろうか。

一緒にやっていた仲間が売り上げ金を駄菓子屋で使い込んでしまった事が発覚した。

こうして僕は小学生時代に起業を経験し、ライバル店に破れ、仲間に裏切られ、

お金を稼ぐという難しさを身にしめた。

お金を稼ぐというのは重要で大変な事。

## 秀才と呼ばれた少年

6組に秀才がいるぞ、そんな噂はすぐ僕の耳に飛び込んできた。  
そんな秀才がうちのクラスにいるのか？  
僕は耳を疑ったが、お構いなしに次のテストでも100点をとった。  
これで4教科連続3回目の100点だ。  
そう秀才とは僕の事だった。  
ただその秀才は作り上げられた物だった。  
僕は隣の5組の友人から採点済みのテストをもらって答えを暗記していただけだった。  
そんな子供騙しを当時の先生はすぐ見抜いた。  
なんと僕に宣戦布告をしてきたのだ。  
「次の社会のテストは隣のクラスではまだやってないよ。」  
と僕の耳元でささやいて薄ら笑いをしていた。  
やばい。隣のクラスから採点済みのテストをもらって100点を取りまくって秀才と  
いう位置まで辿り着いた。その地位を失いたくない。  
僕は人生で始めて猛勉強をした、  
テストの結果は84点。でもクラスで一番だった。  
先生は僕にこういった。  
「やればできるじゃない。自分の力を信じなさい。」  
先生は僕がいかさまをして100点をとった事には一つも触れずに僕を褒めた。  
100点をとった時は一度も褒めてくれなかったのに・・・  
自分の実力でとった84点は嘘で固めてた100点よりもうれしかった。  
自分でも努力すればできる。

\*\*\*\*\*

**結果よりも自分の成長に繋がるプロセスに興味を持つきっかけとなった**

**2つの出来事だった。**

**一時的な成果より後に残るプロセスを重要にする思考はすべて虚実から始まった。  
結果しかみない現代社会の中で小学生の時からプロセスを考えられた僕の経験は  
今後の人生に大きく影響していった。**

\*\*\*\*\*

## 2、 高校生時代

### 公務員試験

親が高校教師だった僕に親は自然と将来公務員を勧めた。

親からの自立、当時茨城に住んでいた僕は東京という大都会に憧れていた。

そして何の目的もないまま公務員試験の勉強を始めた。

やるからには全力をつくしたい。

高校時代全く勉強をしなかった僕は小学生ぶりに自分の意思で勉強を始めた。

何のために公務員になるのか？

何のための勉強なのかを考える余裕もなく僕は猛勉強した。

ある日事件は起きた。自分の部屋で勉強の途中寝てしまい僕は自分の部屋でじゅうたんの上で寝てしまった。その瞬間息ができなくなった。気管支喘息。

僕は生死をさまよった。もっと生きたい。初めて心の底から思った。

異変に気付いた親が救急車を呼んでくれて僕は病院に運ばれた。

いつ死ぬか分からない人生の中で今回僕は結果的に生き延びた。

そして生きるために自ら生計を立てていかなければならない年になった事も実感した。

入院後すぐに公務員試験が訪れた。

試験会場に向かうと僕は啞然とした。

全国から集まってくる試験者の数。駅から行列が続き、試験場は人で溢れかえっている。

この中で数十人しか受からないのか。

しかも試験会場はここだけではない。

全力で試験勉強ができなかった僕、何故公務員になりたいかを持たない僕が、彼らに勝てるわけがなかった。

結局僕は親のコネで東京のシステムエンジニアの会社に入社する事になった。

僕の力はまだ社会のレベルに到達していなかったのだった。

### 3、 19歳（就職1社目1年目）

#### 東京上京

僕は茨城から上京してきた。

初出社の日なれないスーツを着て家をでた。池袋駅から埼京線で渋谷駅へ。電車からホームに降りた。満員で降りれないと思った程人がいっぱいだった。ホームから改札向かって歩きだした時、ふと前を見た。スーツを着た何百人もの人が前を歩いている。横にも後ろにも。僕もこの何百人の中の一人なのか・・・みんな、そして僕も一生この道を同じ時間、この時刻に歩き続けるのか？そんな違和感から僕の初めてのサラリーマン人生は始まった。

そして一年後、

当時僕は池袋西口から徒歩1分の大都会に住んでいた。

東京にすれば何かが変わると思っていた。

東京の大都会が僕に何かを与えてくれると思って僕は上京した。

でも何も変わらなかった。

東京に一年住んで思った事。

東京というフィールドを利用して何がしたいのか？

自分が何をしたいのかを持っていないと東京の大都会は僕を嘲笑うだけだった。

何かを変えたい。でもその何かが分からないまま僕の10代は幕を閉じた。

## 4、20歳（就職1社目2年目）

### イベント主催

何かを変えたい。僕は友達と二人でイベントを主催することに決めた。社会人である僕と、大学生である友人の力を合わせ社会人と大学生の交流会を開催したのであった。

僕等が選んだ会場は都内最大クラスのクラブ。

目標集客人数は300人、予算はクラブ貸切料だけでも50万以上だった。

僕はフライヤーを作ったり、街中で勧誘したりとサラリーマンの傍ら熱心に成功という目標に向かって邁進した。

このイベントを通していろいろな人と出会って、いろいろな経験をした。

自らもお笑いライブをやりお笑いを研究した。

そして当日、会場には200人以上の人がきてくれた。

サラリーマンをしながらイベントを主催して仕事以外の活動をした経験は大きかった。僕の会社の中ではサラリーマンになって忙しく、土日は何もできないという周りの人が多くいた。

では僕のサラリーマン人生も同じように過ぎていくのか・・・

イベント主催は忙しくて何でもできると自分の中で証明した出来事だった。

ただ予算は赤字で結局僕は10万以上自腹で払った。

でも僕にとってはそれば海外旅行以上の経験が得られたし、10万円以上に値する投資だった。

自らの力で自分の人生は変えられる。

そして現状を変えるためにはある程度のチャレンジとリスクが必要だと学んだ瞬間だった。

イベント終了後の夜、僕と友達イベントのプロセスを振り返り久しぶりに大笑いをした。

それはやりきった人にしか味わうことのできない心からの笑いだった。

## 太平洋

入社2年目持ち前の努力と興味心で目の前の仕事を着実に僕はこなしていた。そして気付いたらプログラミングの早さは同期で一番となっていた。

でも、自分の仕事が世の中にどういう影響を与えているのか、自分の仕事の全体像等は全く知ろうとしない素人だった。

周りが専門卒、大学卒業の中で高校卒業の僕は子供だった。

高卒で働いたからか、世の中のしくみが分からなかった。

大学卒業同士が話す世間話が理解できなかった。

センター試験？学部？単位？履修？必須科目？TOEIC？

僕は大学生を知ろうと、それもいわゆるエリート社会を知ろうと東大のサークルに入った。

僕は東大生と一緒に合宿に行った。

僕は東大生と一緒に学園祭を主催した。

東大生の中に高卒の僕が一人いた。

でも周りの人はみんな僕を東大生と思っていた。

『この人こう見えても東大生なんだよ。将来有望よ』

と合宿先で働いているおばちゃんが僕に言った。

『なんだ東大生じゃないんだ・・・』

と好きだった女性に振られた。

『この人東大生なんだから握手してもらいなさい』

と学園祭に来ていた高校生の子供がいる親に言われた。

僕はなんなんだ・・・僕は誰なんだ・・・

そんな時ふと太平洋を見る機会があった。

太平洋を見た瞬間、衝撃が走った。

あまりにも大きすぎた。

そして絶対この海も小さくなっただけな気がするようになりたい

この海のでかさに正直飲み込まれました。私は無知だ、

この海の向こうに本当に他の国があるのか？10年後この海を見た時どう思うのか？

初めて無知の自覚をし、自分が生涯どれだけ成長できるのか？

そんな生きる喜びを持つようになりました。

30歳になった時もう一度この海を見に行こう。

\*\*\*\*\*

この太平洋との出会いは僕を子供から本当の大人への第一歩だった。

そして海に勝つ為には次の5つの行動が必要と思い実行した。

あの時突発的に旅をし、突発的におりた駅で、偶然見た太平洋。

同じ景色をみてもその人によって感じ方が違う。

同じ人でも成長によって感じ方が違う。

30歳になった時僕は同じ景色をみてどう感じるのだろう。

その一瞬を確かめるために僕の苦しみが始まった。

感動を与える事のできる人間	スポールブール
日本、世界中を旅する	西日本一周 世界一周
組織を作る	スエ NPO SUSHI
経済をマスターする	大学入学
コアな能力を創る	天職を見つける転職活動

\*\*\*\*\*



## 5、21歳（就職1社目3年目）

### 大学受験

会社内の同期、先輩、上司からは高卒なのに仕事がよくできるねえと言われ続けてきた。自分だって勉強さえすれば大学くらい受かるという自負があった。でも、やればできると、やってできたとは天と地程違う。僕は自分の人生を変えるためにサラリーマン受験を試みた。もしも、僕が大学受験をして大学に受かったら確実に人生が変わるだろう。だけど、自分の人生を変えたとしたらそれなりの努力が必要だ。通常の人生は会社に就職するために大学に入学する。ただし僕はもう会社に就職していた。みんなは言った。なんで今頃大学に行くんだ。子供の時に親に言われた言葉、大学に行くなら自分のお金で行ってくれ。その意味は大学に行くなら自分の意思で行ってくれという事だった。大学は高校を卒業していくのではなく、行きたい時に行く場所だ。

周りの人は口をそろえて言った。働きながら大学受験なんてできっこない。誰一人できると言う人はいなかった。でもその中で挑戦したことのある人はいなかった。そして僕にはこう聞こえた。僕にはできないから君にもできないって。そんな論理にとらわれたくない。自分でできるかできないか確かめたい。人が無理だ無理だ言うのと僕の実現可能性は反比例している。なぜなら人の期待に答えたいから。モチベーションが上がってくる。誰かにやると断言した瞬間それは自分だけの挑戦じゃなくなる。自分ができなかった事で他人を裏切りたくないから……。そして僕は受験勉強中にある事も決意していた。大学に入っても必ずしっかり勉強しよう。自分のお金と自分の時間を投資している中で通常の大学生と同じ時間は過ごせない。受験勉強の中、僕は既に入学後の自分を想像していた。僕の受験勉強は凄まじかった。バイクに乗りながら単語帳を覚え、歩きながら参考書を読みながらかつご飯を食べた。苦しかった。自分がどれだけやれば受かるのかも分からなかった。

既に同世代の友達は3年前にこの経験をしていると思うと自分も逃げるわけにはいかなかった。

受験をした大学は1校。

予算と試験日程上1大学しか受けなかったが僕は見事合格した。

合格通知が家に届いた日は天にも昇る気分だった。

実際大学に入学すると多くのサラリーマン大学生が存在した。

同じ目的を持つものにこれだけ囲まれるとできないと考える方が難しいなと思った。

多分僕に無理だと言った人も、この光景を見れば誰にでもできると言うだろう。

想像で拒否するか？現実で拒否するか？

それは現実と向き合わない判断できない。

こうしてサラリーマンと大学生、僕の2足のワラジは始まった。

## 6、22歳（就職1社目4年目）

### 退職の決意

大学に入学してから会社の存在に悩み初めてきた。

受験勉強中は仕事が全くなく、僕の上司が見かねて僕にこう言った。

「今は仕事がなくてお前に迷惑をかけてしまっているのは申し訳ない。

ただこれから忙しくなるからもうちょっと辛抱してくれ。」と言ってきた。

僕は当時受験勉強の事だけを考えていたので、

仕事がないのはむしろラッキーとしか思っていなかった。

しかし僕は会社に仕事をしにきているのだ。上司のやさしさと自分自身の考えの甘さ、

僕は悔しくて会社のトイレで泣いた。

2足のわらじでやっていける程仕事は甘くないのではないのか？

そんな時大学生の友達が僕に言った。

『卒業したら、どうせ会社を辞めて転職する気ならもう辞めちゃえば？』

当初俺は何年かかってでも大学を卒業しようと考えていた。

しかし、普通の会社員と学生社会人の俺とは明らかに時間の質に差がでてきた。

気軽に生活のために残業をする人もいて、授業が迫って帰りたくても、

雰囲気では帰れない。帰ろうとすると「もう帰るの？」

どんどんストレスがたまってきた。ただ勉強がしたい。

今日は何て言って帰ろうか そんな事を考えながら一日が過ぎる日もあった。

そしてとりたい授業がとれない。

同僚や忘年会には断らなければならない。

仕事に力が入らなくなってきた。

安定した人生を選ぶのか？チャレンジするのか？

あの太平洋との勝負には退社しなければ勝てないと退社を決断した。

そしてちょうど大学の夏休みに入ってきた頃会社の仕事も大忙しになってきた。

入社以来一番大きな仕事も任せられた。部下もついた。

上司に退職の相談すると、お前が必要だ。

と言われた。嬉しかった。当初三ヶ月後に退社するつもりだったが、

退社をこのプロジェクト終了の1年後まで延ばした。

これが僕を育ててくれた会社と上司への最後の恩返しの仕事だった。

\*\*\*\*\*

## 退社を決めた理由

大学に集中するため。

受験勉強で苦しみやっと入った大学、お金と時間を投資しているのに全力で勉強できない環境を変えたいと思った。

旅行をするため。

世界中をこの目で見てみたい。そのためにはどうしても会社という組織から離れなければならなかった。

会社から学べる事がなくなったと判断した。

高校生の時になんとか決めた仕事を一生続けるのは嫌だった。

世の中をもう一度見て見たかった。

起業で勝負してみたかった。

\*\*\*\*\*

## 6、23歳（就職1社目5年目）

### 退職日当日

退社当日僕は今までのサラリーマン人生を振り返ってみた。

19歳の時、僕は高校を卒業してすぐにプログラマーとして大手金融機関でサラリーマンになった。

少年世界から大人世界へ、僕は大学生という青年という時代を飛び越えて大人の世界に入った。

22歳の時から、僕は1年半の間、大学生と社会人を併用した。

朝9時に出社して10時まで残業する。ごく普通のサラリーマンだった。

大学に通学している事を除いて・・・。

大学生だから甘くみられる事はされなくなかったのが大学生という事は会社には伝えなかった。

日本の会社はチームという意識が強く、私もその強みを強く意識していた。

会社の勤務時間終了後に大学に行っていたが、授業があるので早く帰らして下さい。

とはいえはずがない。苦勞の末大学受験に合格した僕は授業に出たいという葛藤があった。

いままでの10代はやりたい事はなんでもやってきた。

しかし、この時初めて何かを得る為には何かを犠牲しなければならない。

という事を時間という概念で感じた。

何かを犠牲にする事によってその場にいた僕はその場にいた人の中でみんな以上の成果を求めていたのである。

そのためには、僕は自分の仕事に時間、精神とも100パーセント力を注ぐ必要があった。100%注ぐ事ができなかった僕に、私と公のジレンマが襲った。

その時初めて仕事とは何か？会社とは何か？人生とは何か？という事に直面した。

結局はっきりとした答えは出なかった。

しかし一つ気付いた事があった。人生100年とすると、まだ23 / 100

そう、自分はまだ若いという事に気付いた。

僕は人生を考える事によって始めて生を点ではなく線で考える事を学んだ。

もう一度、自分を見直すと共に、世の中を見よう。

私はこのプロジェクトが終了後会社を退社する事を決意した。

回りの人はみんな猛反対した、親も猛反対した。先輩、友人も猛反対した。

その反対は僕の若さへの不安を感じ取ったやさしさだったんだろう。

その中でも自分の考えを認めてくれ、快くわがままを聞いてくれ、応援してくれた人もいた。

人生の変化を自ら決断した人は強くなれる。  
そして、自分自信の決断に間違いはない。  
間違いがあるとしたら決断後の自分の行動に間違いがあるのだ。

こうして僕の人生は次のステージへと進んでいったのである。  
想いを募らせて。

\*\*\*\*\*

**人としての成長は真剣から始まり  
悩みでつまずき決意から発展し  
目標でぶれず達成で完結する。**

\*\*\*\*\*

## 7、24歳（大学2、3年生）

### 起業への挑戦

サラリーマン時代を終えた僕は自ら起業したいという気持ちが溢れていった。  
しかも時代は学生ベンチャーブームのまっしぐら。  
僕はすぐさま学生ベンチャーサークルを立ち上げ大学に申請しメンバーを集めた。  
経験に基づく自信をテーマに僕等は突っ走った。  
この時はまだ何のために起業し何のためにお金を稼ぎたいのかが分からなかったと思う。

でも性格上思いは真剣だった。どうすれば起業できるのか。  
僕は今まで経験のあったイベントのスキルを使ってお金を稼ぐ事から初めてみた。  
今までは街、知り合いを中心に人を集めていたが、僕はインターネットに目をつけた。  
現実の世界では今までの経験上、イベントを盛り上げる自信はあった。  
仮想の世界でも今までの経験上、HP作成、プログラムを組む等自身はあった。  
第一回のイベントではインターネットから全く知らない人達80人以上来てくれた。  
その中には色々な人がいた。

既に起業している起業家の人、公務員、政治家希望の人、お笑い芸人、外国人、  
同じ中学の後輩（全くの偶然で・・・）

第一回のイベントは大成功に終わって利益もでた。

しかし、思考錯誤を繰り返す日々が始まった。

学生の世界では勝てば都から資本金として300万円を助成される学生起業家選手権  
で激励賞を頂いた。

テーマを持って自らも興味がある英会話イベントも取り入れたりした。

でも人が思うように集まらず僕はビジネスの壁にぶつかった。

そしてサラリーマン時代の貯蓄もつき残金が1000円を切った・・・

僕は栄養失調になり自宅で倒れてしまった。

気付いた時には僕は実家のベットで寝ていた。

起業は僕には早すぎた。何にもかけるものがなかった。

実質同じベンチャーサークルから大学を中退し親の反対を押し切って起業して今も  
継続している社長もいる。

僕は再起を誓って新たな道へと進みだした。

## 世の中をもう一度見る

職を失った僕も食べていけないといけない。

家賃、生活費、さらに大学の学費も払わなくてはいけない状況だった。

僕は色々なアルバイトを経験していった。

美術館で美術品のセッティングをしたり、デパートで棚卸をしたり、

マンションのチラシをポスティングしたり、

排水溝のドロ掃除をしたり、ビルの消防設備を点検したり、

事務所移転の荷物運びをしたり、

公園清掃をしたり、高速道路で既存建物の調査をしたり、

大手総合商社で蛍光灯を拭いたり、老舗ウナギ屋での接客販売をしたり、

オフィスのタイルはがしたり、着物イベントの設営をしたり、習字の審査をしたり、

おばあちゃんの引越し手伝いをしたり、パン工場でパンを作ったり、

パチンコ屋で早朝、深夜に掃除をしたり・・・

いろいろな仕事を見た。

いろいろな体験をした。

いろいろな人生がある事を感じた。

僕は世の中を見る事によって、そして自ら体験する事によって、

自分が生きてきた人生と違う人生がある事を知った。

様々な職場でいろいろな人に出会い、いろいろな事を聞いた。

それぞれみんなストーリーを持っていた。

みんなが生きるために必死だったのを感じた。

仕事は人を成長させる。

僕はこの時初めてそう確信した。



## 8、就職活動（大学3、4年生）

### 就職活動十か条

3歳年下の同級生と競う大学生最大のイベント、就職活動が始まった。  
人事からしてみれば同じ年代の人もいただろう。  
この就職活動で僕の人生が大きく変わる。  
僕は自分をもっとも成長する環境を選ぶ必要があった。  
そのため僕は直ぐに就職活動十か条を作成した。

< 就職活動十か条 >

就職活動のテーマ 『素直』

- 1、 **この就職活動が一生を決める。**
  - ・ 苦しんで生きるのか？楽しむのか？なら今苦しもう。
- 2、 **社会人時代を思い出せ。**
  - ・ 仲間との苦しみ、大学と会社との苦しみ。
  - ・ もう一度就職活動がしたいという想い。
  - ・ 根本の根が今後の自分を支えるという想い。
- 3、 **同世代に負けるな。**
  - ・ 社会人3年目（24歳）
- 4、 **自分一人の人生ではない。**
  - ・ 家族、期待をしてくれている人、感動を待っている人、  
今まで知り合ってきた人。
- 5、 **すべての人を活用しろ、とまどうな。恩返しは後からしろ。**
- 6、 **自分が選んだ道に後悔はない。**
- 7、 **悩み、苦しみ、そして見つけろ。  
それが真剣に楽しむという事だ。**
- 8、 **成功を思い出せ**
  - 50人飲み会、受験、NY、バンジ-ジャンプ、ナイト、フルマラソン、  
日計、延滞管理、チャンス、インド、世界選手権、  
英会話クリスマスパーティー
- 9、 **アルバイト時代を思い出せ。**
  - ・ 人に使われるという屈辱。
- 10、 **常に本気で行け、必ず、誰かが見ている。**

## 就職活動対策

自分が今まで何をしてきたか？

- ・ イベントを通しての活動。
- ・ スポールブル日本選手権優勝。

そこから学んだものは何か？

- ・ 自分で自分の可能性を決めるな。
- ・ チャンスはいつくるか分からない、常に己を鍛える。
- ・ 自分で決めた事はなんであろうと後悔はしない。

自分の抜き出ている能力は何か？

- ・ 無知の自覚。
- ・ ユーモア -

なぜその会社（業界）を選んだのか？

（この思いが強ければ強いほど、会社での行動、目標が大きく違ってくる。

そして、これから予期もしない見えない敵（暗闇の一撃）が現れた時に必ず力になってくれる。）

その時の感情ではなく、全体的な計画で自己のこれからの行動が判断できる。

\* 暗闇の一撃

- ・ 彼女の妊娠
- ・ 会社の倒産
- ・ 仕事上での大失敗
- ・ 社内でのいじめ
- ・ いきなりの左遷

体験トークは人を納得させやすい。

（自分にしかないオリジナリティー）

- ・ 言われてもできない人

（他にやりたい事がある。上司が嫌い、上司をなめている）

- ・ 言ってできる人
- ・ 言わなくてもできる人になる。

（全体を見て、自分のやるべき事がわかる。）

（他の人の会話を常に注意して聞く）

### 自分の就職活動

- ・ 中学生の時から、大学行くなら自分の金で行ってくれ。という親の声を聞いて育った僕は特に大学というものに興味は向かなかった。
- ・ 親や姉が公務員という事もあって、公務員を進められた。その影響もあってあらいいる公務員試験を受けたが結果は不合格。
- ・ かねてから東京で仕事がしたいと思っていた僕は親の紹介でソフトウェア会社の面接を受けた。
- ・ 面接では中学の時の野球部キャプテンを押したが特に強みの話はなかった。
- ・ 筆記試験は公務員試験の猛勉強もあって比較的できた。
- ・ 3年以上は必ず続けようと心に決めていた。

### 現時点での就職活動

- ・ 自分の人生日記を作成中  
自分がどんな環境で育ち、どんな事に興味をもち、どんな強みがあり、どんな弱みがあるのか、そしてその背景にはどんな体験があるのか？

### 自分の中のポリシー

大きな視野で常識にとらわれず、常に進歩し、常に考え、常に楽しむ。  
人を想い、感動とユーモア - を与え続ける。

### 今後の対策

- ・ 業界の絞込み

### どんな会社に就職したいか

- ・ 自分のポリシーとあっている
- ・ 実力主義である
- ・ 人生をかけられる
- ・ 尊敬できる人がいる
- ・ 効率的な企業である
- ・ 企業できる能力が身につく
- ・ 社会や経済、世界とつながっている。(あきない、刺激的である。)

## 就職活動勝利の方程式

3年目までに離職する者が 高卒で約5割、短大卒で約4割、大卒で約3割というデータがある。

就職とは人生の半分以上の時間を費やすことである。

自分の人生を決定する事である。

即ち、

就職活動の勝利とは入社にあらず。

勝利とは、企業と自分が相思相愛の恋愛ができるかにあり。

恋愛就職を目指せ。

1. まずは戦略をたてる。戦略なくして戦術なし。

<戦略>

- ・ 自分の人生でのミッションの決定。
- ・ 人生計画書。
- ・ 自己分析
- ・ 業界研究
- ・ 企業研究

<戦術>

- ・ 資格
- ・ 面接対応
- ・ SPI
- ・ OB 訪問
- ・ マナー
- ・ 論理力
- ・ インターン
- ・ 経験

2. 最強の戦術を身につける。

人は人との会話、行動によって心を動かされる。

それは仕事上でも同じ事である。

面接官の心を動かす会話をしよう。

ではどうしたら面接官（企業）が心を動かすのか・・・？

答えはオリジナリティーの思いにある。

これまでの経験から自分が何を不得、

何ができるのか？そしてなにがしたいのか？

なぜこの業界を選んだのか？など様々あるが、私が推奨したいオリジナリティートークは、自分が今まで生きてきた人生の中で、心を動かされた衝撃の体験、生きている実感を味わった体験、生きるうえで大事な事を教わった経験、など自分が心を動かされた経験を面接官にぶつけ、御社には私が必要としている環境が整っているの、その気持ちを持って御社に入社してこのような思いを伝えていきたい。とトークすれば、オリジナリティーがあふれ絶対勝利をもちとれる事でしょう。

もし、面談で落ちたとしてもそれは自分の自己実現がその会社ではできないと会社側が判断したのであって、自己実現ができない会社に入社し、時間をとられるくらいなら、採用ない方が勝利なのである。

重要なことは自分の思いを企業に伝え、企業がそれを実現できるかということを確認することである。そしてそれが、企業側にとってもメリットがあると感じたときが相思相愛の恋愛就職なのである。

#### オリジナリティートークの3原則

- ・ 真の思いでなくてはならない。
- ・ お互いにメリットがなければならない。
- ・ 上記の事を破ってはならない。

最後に一言。

『恋愛とは、人を思い、他人の気持ちを考え行動することによって、お互いが成長することである。』

以上 恋愛講座でした。

## 自己分析

\* 人生のEXCELシートから一部抜粋

感動	独立心	自信	悩み
		同期NO1	プライベート
		東大サークル	
	社会人学生交流会		
		2000年問題	学歴
太平洋			
坂本竜馬			大学受験
		NY一人旅	
タイ旅行			
	お金持ちお父さん	次期開発	社会人と大学生
	ナイト(200人イベント)		
		フルマラソン	
	退社		
	日本中を旅行		
		インターネットイベント	
スポールプール			
			将来
			親(栄養失調)

	英会話サークル		
	世界選手権14位		
	ガスパニック		
寿命1年の人			
	▼アフリカゲストハウス		
	世界一周		
イグアス		南米一人旅	
マチュピチュ		アフリカゲストハウス	日本社会適応
		5ボール完成	ジャグリング

## 会社、業界

どんな業界に就職しどんな会社で働きたいんだろう。  
僕は自然に考えをまとめていった。  
そしてその表を企業にあわせながら最適な  
企業を探していったのだった。  
会社には絶対入社しないと真実は分からないと思っていた。  
でも自分で考え自分で判断したい。  
自分でさえ決断すれば入社後にどんな苦労があっても  
乗り越えられると分かっていたから。

会社	理由	業界
社長がおもしろい人生		
私の理念と一致している		
教育制度がしっかりしている		
福利がしっかりしている		
選ばれた人材しか入ることができない		
おもしろい人がたくさんいる		
海外に支部を持っている		
休みがしっかりとれる		
環境がよい		
社長になれる		
組織がやわらかい		



業界	理由	業界
フィーリング		
INTERNATIONALである		
私の理念と一致している		
様々なコネクションがくれる		
ディスクワークだけでない。		
考える仕事		
起業家になるための勉強ができる		
なにかのプロフェッショナルになれる		
社会に影響力がある仕事		
日本の経済発展に貢献できる		
業界の全体が見ることができる		
自分がやってきたことが活かされる		

企業		
グローバル		
直接的		
間接的		
将来性		
プロフェッショナル		
スペシャリスト		
実績		
支援プログラム		
専門性		
随時研修		
新人研修		
将来ビジョン		
経験が生かせる		
フィールド		
配属先自主移動		
転勤		
自由と責任		
実力主義		
コネクション作り		
顧客レベル		
顧客貢献度		
社会関連性		
社会貢献度		
業界トップレベル		
多角的		
成長性		
人		
社長		
人事		
上司		

先輩		
同期		
オプション		
福利厚生		
待遇費		
プライベート		
スポールプール		
転職の有利差		
家族		
理念		

\*\*\*\*\*

結局僕は150社以上の会社説明会、70社以上の面談、筆記試験を行った。  
 就職活動を通さず高校卒業してすぐに働いた僕にとってはこの活動は新鮮なもの  
 だった。

たった数ヶ月の就職活動で自分の人生が決まる。

そう考えると就職活動は全ての人にとって真剣になる環境が整っていた。

みんなが考え、悩み、決断していたと思う。

しかし、苦しんで最初に内定が受かった会社に入社してしまうと、入社後に自己責任  
 が弱くなると思っていた。

必ず複数の内定を頂き、自分で選択し判断しよう決めていた。

入社後にどんな理不尽な事があるかと自分で選んだ会社という自尊心を保ちたかっ  
 たからだ。

こうして僕の条件にもっとも近い会社に就職する事になったのだった。

\*\*\*\*\*

## 9、25歳（入社2社目 1年目）

「3年でどこにでも通用する人材になる。」

そのストーリー完結のために僕の入社2年目が始まった。

### 入社前研修

内定をもらった内定者が来年4月入社前にアルバイトとして社内研修をする制度が会社にあった。

内定者100名の内社員研修を受けなかったのは僕1人。

僕は人事にこう言って世界一周へ飛び出した。

今しかできない研修をしてきます。

僕にとって入社後にもできる研修よりも、

今、この期間しかできない世界一周を選んだ。

決められたルールより、すこし脱線してもいいから自分のルールを創りなさい。

僕が高校生の時に担任の先生から言われた言葉だった。

僕はその重要な意味を7年経った時初めて理解する事ができた。

僕が世界一周から帰ってきたのは、なんと入社3日前。

本当にぎりぎりまでアフリカにいた。

アフリカでいろいろな人にあった。

君は絶対日本社会に対応できないよ。

と言われた。

半年間日本社会から離れ、自由奔放な生活をしてきた。

時間という概念を忘れさせてくれたアフリカ社会。

確かに会社という小さな世界では研修に参加しなかった事で遅れをとったかもしれない。

でも人生という大きな世界では確実に力をつけていった。

ルールを創るのも自分。ルールを走るのも自分。

僕はこうして自由奔放な世界から日本社会へと進んでいったのである。

## 名刺獲得レース

新入社員時に営業なら必ずやる飛び込み営業。

一日8時間の勤務で名刺を何枚獲得できるだろうか。

この名刺獲得レースは実は新入社員の器を図るにはもってこいの仕事だと思う。

とにかく数を回って名刺を獲得する人

とにかく元気をだして名刺を獲得する人

とにかく愛想よく名刺を獲得する人

とにかくアイデアをだして名刺を獲得する人

とにかく熱心になって名刺を獲得する人

とにかく諦めないで名刺を獲得する人

とにかく自分の特技を生かして名刺を獲得する人

とにかく他の人に負けないという一身で名刺を獲得する人

どうやったら名刺を獲得できるのかを考える日々が続く。

名刺を何故獲得しなきゃいけないだと悩む他の新入社員を退き

僕はとにかく名刺を獲得する目標に対してプロセスにこだわった。

数を回って名刺を獲得する人に負けないよう、

地図を買い飛び込み用のビルを事前に調べルートを事前に確認した。

移動は全て走った。

元気、愛想をだして名刺を獲得するものに負けないようありったけの

元気と愛想を振りまいた。

アイデアをだして提案資料を作ったり、自分の売り込み用パンフレットを作っ

たり、名刺がない相手には名刺を僕が作ったりした。

自分の特技のジャグリングを駆使して昼休みでも名刺を獲得した。

名刺獲得レースの最終日。

僕の上司は名刺百枚とってこいと指示を出した。

今までの僕の最高記録は多くて60枚。

そして今までの歴代営業マンでも1日で名刺百枚をとった人はいなかった。

この日が僕の営業マンとしての原点だったと思う。

僕はあらゆる手段を使用して名刺を交換していった。

絶対100枚とるという情熱だけは持っていた。

結果は103枚。奇跡は起きた。いや僕は奇跡起こしたのだった。

営業として一番重要な目標をやりきる精神を僕は身につけたのだった。

## 三人の上司

僕には三人の上司がいた。

一人目は、長年営業ナンバーワンを死守する情熱的な現役営業マン

二人目は、そのナンバーワン営業マンを育てた礼儀正しく理論的で堅実な上司

三人目は、その二人をまとめる経験、知識、戦略、精神論をもつ上司

僕が新入社員の時その三人の上司と同時期に仕事ができた事は奇跡なのか  
運命なのか。

三人の上司に影響をうけ僕は彼らのスキルを吸収し、

僕のよさを足していった。

三人の指示が全く違うときもあった。

上司に指示されてやったことで別の上司から叱られた事もあった。

三人の上司に叱られて全く仕事ができずに終わった日もあった。

一人目の上司には営業手法を叩き込まれた。

ナンバーワン営業マンの上司は新入社員の僕にレベルを合わせるのでは  
なく。営業ナンバーワンの視点で僕を叱った。

二人目の上司には論理的思考を叩きこまれた。

常になぜを問われた。僕が絶対に理由がないと思った事に対しても  
なぜと問い詰められた。僕は論理的に物事を考えるようになって行った。

三人目の上司からは気持ちを叩きこまれた。

このままだと三つ全部中途半端になるぞ!!!仕事をなめるな。

\* 三つとは仕事とスポールボールとジャグリングの事  
と叱られた。

僕はこの日必ず優秀社員をとると心に決めた。

\*\*\*\*\*

当時はこの三人の上司と僕の関係が当たり前だと思っていた。

ただ翌年には組織体制も変わり、この1年が特別だった事に後から気がついた。

この三人の上司と一緒に仕事ができた事は偶然だったのか、奇跡だったのか。

新入社員としては最高の環境で仕事ができたとと思う。

僕はこの環境を最大限に利用した。

\*\*\*\*\*

## 10、26歳（入社2社目 2年目）

### 年間優秀社員賞獲得

僕が営業で入社二年目の時、年間優秀社員をとった時。

一年目の僕の成績は同期約50人中16位

中の上の位置だった。

二年目に入る時僕は今期の目標を年間優秀社員に設定した。

理由は一つ自分自身が成長したいから。

周りの同期、先輩社員は笑った。

毎日怒られてばかりの奴が何言ってるんだと。

ただ僕は確信していた。

チャンスはあると...

何故なら他に本気で狙っている人がいなかったからである。

僕はまず年間優秀社員が取れなかった時のリスクを考えてた。

もしも僕が年間優秀社員をとれなかったら来年も目指さなければ  
ならない。

それは僕の成長にとっては一年間のロスを意味していた。

だから2年目の1年間というのは僕にとっては4年に一度のオ  
リンピックより重かった。

だから僕は必死で数字を追いかけた。

みんながサボるのを特だと思い。

みんなが数字をあげるたびにプロセスを聞いた。

自分自身で自分の人生を変えるために。

一番苦しかったのは9月。

純増半期600万が優秀社員のボーダーライン。

しかし8月終わった時点で純増300万。

5ヶ月間の成績と同じ数字を1ヶ月であげないといけない。

当時僕はよく新宿のバーで一人仕事帰りに考えていた。

どこの企業を攻めるか。

ライバルは誰で数字はどれくらいか。

そして最後にいつも考える事。

自分は優秀社員がとれるのか？

でもそんなマニュアルはない。

結局は今できる事を本気で考え、本気で実行する事だ。

上半期最後の9月僕は純増3百万以上を積みあげ上半期優秀社員を獲得した。  
そしてその勢いで年間でも優秀社員も獲得した。  
本気になれば知恵がでた。  
本気になれば上司、同僚が協力してくれた。  
本気になれば手を抜いている自分が許せなかった。  
でも僕は何故本気になれたのだろう。  
理由は一つ、決心した自分自身を裏切りたくなかったから。  
優秀社員をとってから社内で意見が通り易くなった。  
自分に自信が持てた。  
自分の居場所ができた。  
そして何よりも次のステージを考える事ができた。  
優秀社員とはもっとも優秀社員をとるのにふさわしい  
ストーリーを持った社員が獲得するものだ。  
そして優秀社員を獲得しそのストーリーが完結した。

\*\*\*\*\*

モノガタリは人を魅力し、人を感動させる。  
一つのストーリーが完結すればまた新たなストーリーが見えてくる。  
何個のストーリーを人生で作れるか。  
大小は関係ない。それが僕にとっては生きている証だから。  
年間優秀社員獲得という一つのストーリーを完結した僕はまた新たな  
ストーリーと出会う事になる。

\*\*\*\*\*



## 1 1、27歳（入社2社目 3年目）

### 心の成長の一年

3年目は僕のサラリーマン人生の大きな成長の転機の年だった。  
入社前3年でどこにでも通用する人材になると決めていた僕にとってはラストイヤーの年だった。  
2年目で年間優秀社員賞を獲得した僕は、  
次の目標は個人の結果よりはチーム全体の結果にこだわった。  
そして、新支社が立ち上がり僕は立ち上げメンバーとして選ばれた。  
かつての三人の上司はいなく、全て自分の力が試されるチーム運営だった。  
そして僕にも部下ができた。  
4月から9月の半年間は去年の勢いでどんどん営業成績を上げていった。  
上半期が終わり成績は個人でもチームでも全国ベスト5以内で幕を閉じた。  
他のチームは会社から与えられた大型案件で能力に関係なく成績が上がっていたので、実際は全国ナンバーワンのチームとなった。

下半期が始まった10月以降に僕は目標を失った。  
人生という迷路に入ってしまったのだ。  
会社の中で自分の考え、意見がしっかりしていく状況で、  
今までの環境と仕事のやり方、考えたかが違う方針が与えられて、  
僕は心身ともに疲れていった。  
僕は心の迷路にはいったのだ。  
自分の弱さが露呈した年でもあり、  
自分と向き合った1年だったからこそ成長できたと思う。  
自分の力ではどうしよもできない壁にぶつかり悩み、  
そして答えを探していった。

その時の気持ちが当時の日記に現れていた。

僕は3年という区切りを持って会社を辞めようと心の底で思いはじめてきたのだ。  
入社前の目標を残したまま。

## 以下日記から抜粋

### < 決断する事 > 2008年1月16日

人生には決断を迫る時が何度あるだろうか？

小さい事から大きい事。

ささいな事から重要な事。

自分の事だけの事から相手があつての事。

感情的な事から論理的な事。

でも言える事は一つ、

決断はスタートだ。

その後の行動と結果でその決断の良し悪しが問われるだろう。

自分で決断した責任は自分にある。

自分の決断に間違つたと思う事はあつても

悔いが残る事はないだろう。

それが自分の意思なのだから。

それが生きてる証拠だと最近思う。

### < 叫び > 2007年 2月5日

いつも思っている事がある。

俺はここで終わるのか

と常に自問自答している。

常に自問自答している事がある。

昨日の自分に負けるなあ。

と常に自作自演している。

常に自作自演している事がある。

自問自答する事だ。

二十代は経験の年と決めていた。

三十代は結果の年。

四十代は進化の年。

五十代は実現の年。

六十代は...

二十代の意志決定基準を持っていますか？

僕は持っている。

僕はワクワクする事を基準としている。

金じゃない。義理じゃない。

## <環境> 2008年2月13日

生きる上で環境は重要だ！

山に登りたかったら山に行けばいい。

海で泳ぎたかったら海に行けばいい。

英語を話せるようになりたいなら英語圏の国に行けばいい。

山を作るのは難しい。

海を作るのも難しい。

英語圏の国を作るのも難しい。

だったら今ある環境を利用すればいい。環境を変えればいい。

他人を変えるより自分が変わる方がずっと簡単だ！

## <心> 2008年2月18日

人の心は一瞬でかわる。百八十度変わる。言葉が変える。

出会いが変える。

## <夢で泣いた話1> 2008年2月19日

夢を見ながら泣いた。

やっぱりお前が必要だと言われた。

悔しかった。

もっときちんと向き合えばよかった。

鬼と思っていたが人間だった。

悩めばいい。

答えがでるまで悩めばいい。

答えなんかないかもしれない。

でも悩んだ分だけ強くなれる。

真剣になれば知恵が生まれる。

怠惰になれば愚痴が生まれる。

知恵をだそう。

愚痴はいらない。

意見を言おう。

夢から学ぶ事もある。

## < 夢で泣いた話 2 > 2008年2月20日

『悔しいです。  
悔しかったです。』  
そう言ながら僕は目を覚めた。  
泣きながら...  
何が悔しかったのだろう。  
泣きながら夢を覚めるのは初めての経験だった。  
有言実行できなかつたのが悔しかったのか  
その環境を作るとしなかつた事に悔しかったのか  
自分の弱さを克服できなかつた事が悔しかったのか  
その全てかもしれない。  
まだあるかもしれない。  
でも向き合おう。  
戦う。  
ちっちゃくなる必要はない。  
何故泣いたのか  
僕の心の叫びなのか  
僕はまた悩み初めている。

## < 最近学んだ事 > 2008年2月21日

自伝のページ増やすために生きる。  
経済のために働く事もあり。  
全ての責任は自分にある。  
男なら誰かのために強くなれ  
けじめの付け方は相手があつての事  
心の成長は真剣から始まり悩みでつまずき決意から発展し  
目標でぶれず達成で完結する。  
年上は大人だ。

## <物事の終わり方> 2008年2月22日

- 1、死ぬまでやり続ける。死んだら終わる。
- 2、自分の遺伝子を作り自分は終わる。その後遺伝子が亡くなれば終了。
- 3、期間が決まっていて期間が終了したので終了。
- 4、やる物事自体なくなって終了。
- 5、一度終了するがまたできる環境をつくって終了。
- 6、自分の都合を押し付けて終了する。
- 7、ひたすら逃げて終了。
- 8、目標を決めてやり遂げて終了。

カッコいいのは8。

決心があれば1。

理想論では2。

緊急時は6。

子供は7。

賢い5。

俺は...

君は

？

## <今の僕の価値観> 2008年2月23日

遊びより本気

瞬間より継続

金より時間

安定より挑戦

サラリーマンよりビジネスマン

原因他人論より原因自分論

恋より愛

愚痴より意見

貯金より投資

多芸より一芸

友達より仲間

名声より本物

テレビより本

楽より苦  
プレイヤーよりマネージャー  
不安より期待  
言葉より実行  
怒りより叱り  
強制より自主  
英語よりスペイン語

人はもっと強くなれる  
もっと悩んで考えて  
人はもっと強くなれる  
行動して実践して  
人はもっと強くなれる  
達成し次に向かって。

## < 仕事をする上で重要な能力 > 2008年2月24日

最初は  
選択力

・この業界、仕事、会社が自分にとって一番いい環境かを選択する能力  
次に

目標設定能力

・現実的で自分でも成長ができ他人も納得している目標を設定できるか。

途中で

自己責任力

・取引先、お客様、上司、部下、会社、家族、恋人、友達、ペット等々な環境から影響をうける。その環境のせいで目標が達成できない、もしくは目標を失っている状況になっていると考えていないか？責任を他人にした時点で全ては終わる。自分の意思をとりもどせ。

最後は

執着力

・絶対に成功するという恐ろしいくらいの執着力  
神に祈るくらいの事をしたのか？

(もう神に祈ることしかやる事がないくらい  
最善を尽くしたのか？)

## <心と心で会話する> 2008年2月26日

心と心で会話ができる人になりたい。  
一方的でもいけない。相手の心を確認しながら。  
間接的でも直接的でもいい。  
相手の心が動く会話がしたい。  
まずは相手の事を真剣に考える事。  
そして相手にこういう考えもあるんだ。と思わせる事。  
それが正解じゃないかもしれない。  
でも正解へのヒントかもしれない。  
相手があって自分がある。  
うわべだけの会話じゃない。心と心の会話をしよう。

心と心の会話に必要な事。

信頼

本気

本音

尊敬

勇気

自信

確信

心

相手の選択肢

## <サラリーマンには三つの心がある> 2008年3月13日

会社としての心。

社員としての心。

個人としての心。

全てが自分だ。

会社としての心しかもたない人は社員の心を理解できない。

社員としての心しかもたない人は会社の心を理解できない。

個人の心しかもたない人は社員の心を理解できない。

成長するには全ての心をもつ自分という心を持つことだ。

会社の意見と個人の意見が違う事はある。

でも自分の心が意見を定める人間になりたい。

感情じゃない理論じゃない。心だ。

家族の心

友人の心

恩師の心

恋人の心

正義の心

も忘れずに



## < 納得力 > 2008年3月14日

納得するまで話合う。

受けての気持ちを意識する。

納得は引く時は引く

自分の利益の発言は相手へのメリットを含めて話す

世の中納得できない事の方が多い

納得から逃げると成長しないが納得から引けないと頭が堅くなる

意見にはそれぞれの立場、環境がバックグラウンドにある

全ての人の意見を叶える事はできないかもしれないが

全ての人を納得させる事はできる

納得には自分の心（前日の日記参照）と相手を思う気持ちが必要だ

納得の敵は悪

納得は強制より理解

納得すれば行動する

一度納得したら後からの言葉、出来事は雑音となる

結論：相手を納得させるのではなくお互いが納めた方が得という意見を提案しどうするかを選んでもらう。

\*\*\*\*\*

上の日記でも分かるように僕の心は成長していった。

そして2社目での会社の終わり方を考えるようになっていった。

ベストは目標を決めてやり遂げる事。

そして円満退社する事。

退社をする事についていろいろな人と話あった。

もちろん三人の上司にも相談した。

いろいろなアドバイスを頂いた。

3年でどこにでも通用する人材になる目標を達成するために

自ら半年間の延長を決意した。

サラリーマン人生物語を完結するために

\*\*\*\*\*

## 退職が決まって思った事

Q、入社を決める理由はなんだろう？

A、自分がやりたい事の環境が整っている

Q、退社を決める理由はなんだろう？

A、自分のやりたい環境が整っていない。

Q、環境ってなんだろう？

A、会社文化であり、業界の流れであり、会社の方針であり、一緒に働く社員、部下、上司であり、プライベートとの兼ね合いだったり、給与だったり、健康だったり、業務内容だったり、人脈だったり、お客さんだったり、福利厚生だったり・・・

Q、じゃ自分のやりたい事ってなんだろう？

A、・・・・・・・・

結局、入社、退社は自分対会社との点通しの考えではない。

自分対人生の線なんだ。

だから人は環境を変える。

しっかり意思をもった人間に会社は止める義務も権利もない。

会社は自分の人生にとって手段であり点なのだ。

点とだけ話しても自分の人生の線は決められない。

過去の入社時の意思を思いかえしてみよう。

過去の退社時の意思を思いかえしてみよう。

きっとそこに人生のヒントが隠されている。

目標をもった人間にとって困難は試練、強いて言えば成長するチャンスとすら感じるだろう。

目標を持たない人間にとっては困難は苦痛にしか感じない。

考えて悩み抜いた結果に真の答えがある。

退社、入社を点として考えてはいないか？

その考えに真実はあるが魅力と説得力は感じられない。

## < 1年の締めくくりの朝礼での挨拶 > 2008年3月31日

3月31日になりました。この一年本当に私にも色々な事がございました。

その一番のスタートが東京支社での異動でした。

右も左もわからない私を唯一支えた言葉があります。

つらい時、苦しい時も正直ありました。

そんな時私の心を支えた言葉が TOKYO OF 東京です。

東京の中の東京という意味です。

私くしは入社前に世界二十ヶ国以上を旅したトラベラーでもあります。

そんなときアフリカの真ん中、南米の真ん中の人たちが私に言ってくる言葉がありました。お前はどこからきたのだと

けして大阪、名古屋、新宿とは聞かれません。

Tokyo かと問われるのです。

何故なら世界地図で必ず記載されているのが東京だからです。

そして三年たった今私はその東京のど真ん中、強いて言えば東京駅の目の前で働いています。

そのプライドを私は TOKYO OF 東京と定義してここまでやってきました。

本日が今期本当の最終日です。くしくも旧支社の最後の扉をしめたのはこの私です。

しかし支社長には内緒にしていたのですが、実はドアは壊れていて鍵がかかりませんでした。

今日は皆さんのためにここに鍵を用意致しました。

みなさんはしっかりと鍵をもって今期という心のドアを閉めて下さい。

## 12、29歳（入社2社目 4年目）

上司も総入れ替えしチームも大幅に変わった。  
でも僕には伝承という最後の仕事が残っていた。  
僕は今までの個人のスキルを凝縮した向上資料を作成した。  
その資料に多くの人が感動したとの言葉を頂いた。  
涙を流して読んだ社員もいた。  
入社10年目の支社長も感動したと言ってくれた。  
その話は取締役にも伝わり賞賛を得た。  
それどころか他業種の方に見せてもここまでのマニュアルは  
なかなか創れないと驚かれた。

半年間僕は自分の責務を全うし退社約束の9月30日がやってきた。

### 最終日挨拶

今まで本当にいろいろな方にお世話になりました。  
この場を借りてお礼をいいたいと思います。  
振り返れば、私がこの会社に入社した理由はただ一つ  
**3年でどこにでも通用する人材になる事**でした。  
就職活動時内定をもらった会社から我が社を選んだ理由は、  
大手企業で身につく礼儀礼節、  
ベンチャー企業で身に付く起業家スピリッツ、  
そして**3年でどこにでも通用する人材になる環境**があった事です。  
入社から三年半いろいろな事がありました。  
新入社員の時毎日怒られてばかりいた私が  
二年目で年間優秀社員賞をとり、  
三年目で部下ができました。  
実は私は三年で会社を辞める決意をしていました。  
しかしやり残した事はないのか？と自分自身と向き合いました。  
私は悩みました。  
個人で数字を残す事はできても自分が教わってきた事を次の世代に伝承はできたの  
か？しかし、いくら悩んでも結論は出ませんでした。  
そんな時私はある夢をみました。  
その夢の中で僕は泣いていました。

悔しいですと言いながら大声で泣いている自分がいました。

それは目が覚めた現実でも同じでした。

30近い大人の大人が自宅のベッドの上で大泣きしました。

このままじゃ終われない。

私は半年間退社を伸ばす事決めました。

この半年間プレイングマネージャーとして個人純増達成と部下へのスキル伝承を目標と決めました。

それは、会社のためでもあり、部下のためでもありましたが最終的には自分のための決断でした。

そして早いもので半年が経ちました。個人で純増達成は致しました。

部下育成もやれる事は致しました。

でも育成はできても結果を残すのはその人自身です。

正直スキルではまだまだ足りないところは各々あると思います。

でも一人一人もう一度考え直し欲しい。

自分が何のために我が社に入社したのかを？

目的がなく入社したなら後付けでもいい。

もう一度言います。

私が我が社に入社した理由はただ一つ**3年でどこにでも通用する人材になる事**でした。

三年半という短い間でしたが私は私自身の目標を達成したと自負しております。

私はこの会社で一つのストーリーを終えて、また新たなストーリーへと走りだします。

この退社という決断は私にとってゴールでありスタートでもあります。

また新たなストーリーで将来皆さんと出会う機会があるでしょう。

その時にまた笑顔で会えるよう。

私は自分自身を成長させるために全力をし続けます。

3年半本当に有難うございました。

## ストーリーの終わり

### < 9月31日の日記より >

3年半勤めていた会社を辞めた。  
めったにない事なので今の心情をリアルに書く。  
別に考えた分けでもなく思った事を書いてみる。  
今の気持ちはなんだろう。  
不安でもない。希望でもない。後悔でもない。  
名残でもない。  
達成感でみちあふれている分けでもない。  
喪失感でみちあふれている分けでもない。  
心が躍るわけでもない。  
なんなのだろう。  
実感がないのだろうか。  
冷静な平常心の中で、心がぼっかりあいている気持ちだ。  
そう、一つのストーリーが完結した今、  
僕にとってサラリーマン人生の3年半は  
既に過去となっていた。  
僕はこのぼっかりとした心の気持ちを埋めるために  
次のストーリーへ旅立つ。  
僕が一つのストーリーを終える時、  
必ず次のストーリーを準備している。  
終えたストーリーよりもっと大きなストーリーが僕を待っている。  
僕は今日から新たなストーリーへと旅立つだろう。  
そして同時に新たなストーリーのまた次のストーリーを探す旅にもでる。  
自分自身が強くなりたい。自分自身がどこまでやれるのか確かめたい。  
その一身があるからこそ次のストーリーへと向かえるのだろう。  
次のストーリーの敵は間違いなく自分自身。  
組織に属していない以上、自分が限界を感じたらそこで成長がとまる。  
自分が躊躇したらそこで成長がとまる。  
苦しみたい。次のストーリーの完結させるために。  
様々な欲求、欲望と戦う必要がある僕の次のストーリーが幕を開けた。  
僕の人生は僕がつくり、僕が決める。  
人としての成長は真剣から始まり  
悩みでつまずき決意から発展し

目標でぶれず達成で完結する。  
一つのストーリーが終わったこの瞬間がすきだ。  
人の気持ちは一瞬で変わる。  
その尊さをしているから僕は今の気持ちを残している。  
前ストーリーと次ストーリーとの間の空間を楽しむ自分がある。

P S :

前のストーリーでお世話になった方、  
なんらかの形で関わった方、  
全ての人に感謝し、お礼を申しあげたい。  
そしていつか出会った時に笑顔で会えるよう  
自分自身を成長し続ける。

## 13、 サラリーマン人生物語（20代日本編）の最後

実は昨日の日記には続きがあった。

9月31日の翌日僕はある夢をみた。

昨晚の心情を僕は日記に書いた。

その時の気持ちは真実だ。

でも僕は僕自身の心を感じとれなかった。

夢の中で僕はまた泣いていた。

よく頑張った。僕はそう言いながら涙を流していたんだ。

どっかでみた光景だった。そう2008年2月19日の日記で書いた

夢の続きだったのだ。その夢の中で僕はまた大泣きをしていた。

それはくやし涙でもうれし涙でもなく。

やりとげた涙だったのかもしれない。

夢とは不思議なものだ。

僕の心の想いは夢に隠されているのかもしれない。

自分の心をコントロールする事を覚えた

人生で、夢が僕の心の足りない部分を映しだしてくれた。

夢の次の場面で僕の右目が僕の左目を見ていた。

左目からは大粒の涙が、右目はそれを怖いくらい睨んでいた。

もう泣くな。次に向かえと僕に語りかけているような気がした。

そしてその瞬間僕は目が覚めた。

現実の世界に帰ってきた時、何故か左目からだけ一粒の大粒涙がこぼれでてきた。

僕は思った。一つのストーリーが終わると単純に次のストーリー始まるんじゃない。

次のストーリーには前のストーリーの想いが詰まっていたのだ。

感情という想いは人間に与えられた特権だと思う。

この日僕は思いがけない形で30歳に太平洋に勝つという僕の夢に大きく近づいた

気がした。

何故ならこの素晴らしい感情は人にしか持てない能力だからだ。

こうして僕のサラリーマン人生物語（20代日本編）ストーリーは完結した。

\*\*\*\*\*

**人としての成長は真剣から始まり  
悩みでつまずき決意から発展し  
目標でぶれず達成で完結する。**

\*\*\*\*\*